



JAPHNEI

# 一般社団法人 全国保健師教育機関協議会

## 会長ご挨拶

一般社団法人全国保健師教育機関協議会会長

佐伯 和子

## 全国保健師教育機関協議会の組織業務運営の安定化と活動の発展

### 着目点

この号は、平成27年度の全国保健師教育機関協議会の委員会活動およびブロック活動の内容について各委員長およびブロック理事や活動担当の方々にまとめていただきました。

### 目次:

会長ご挨拶	1
特集1 委員会活動報告	2
特集2 ブロック活動報告	4
編集後記	7

新年度を迎え、春の包み込むような陽気の中にもかかわらず、忙しく過ごされていることと存じます。

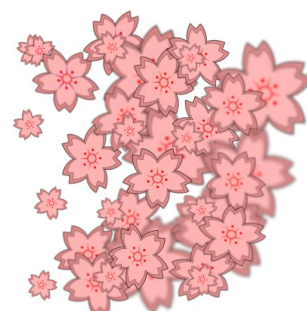
卒業した学生は10年後、20年後の社会を支えてくれる人材であり、未来を創造する人材を育てる教育の仕事の責任の大きさを感じます。ICTの急速な進歩、社会格差による健康格差の拡大、地域医療体制整備の促進等、社会はめまぐるしく変化しています。それに伴い保健師教育で卒業時に期待される人材像は、実践能力もさることながら、予測が困難な時代に主体的に考える力を持ち、チームにおいてリーダーシップを発揮できる人です。

保健師教育の体制が多様化するなかで、目指す人材像のためには何を教育するべきか、どのようにカリキュラムを作成し、講義・演習・実習を展開するとよいのか、試行錯誤で日々の教育に取り組まれていることと存じます。全保教では、保健師教育のミニマムリクワイアメンツを提示してきましたが、今年度はより中核的な要素を抽出してコンパクト版のミニマムリクワイアメンツを作成しています。保健師教育に従事する教員の経歴は様々ですが、活動の成果であるこれらの報告書が教育実践の参考になることを願っています。また、保健師教員のキャリアラダーの明確化とキャリアラダーに沿った研修体制についても検討中です。会員校の皆様のニーズに合った協議会の活動を進めたいと考えていま

す。

2015年度は、一般社団法人全国保健師教育機関協議会の将来的な発展を見据えて、ブロック組織の再編、委員会体制の整備などの組織の改革と会費の増額を会員校に提案しました。保健師教育の水準の明確化や方法論の開発など会員校の教育の質の保証と、アイデンティティと実践力の基礎を備えた保健師の養成を実現するために必要と考えています。

2016年には、国家試験出題基準の改定作業が予定され、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の見直しも控えています。看護師教育課程においては、地域と保健師の活動を理解して地域医療に従事できる看護師を育てることが保健師教育担当者の役割です。また、その上乗せとして、保健師教育課程では公衆衛生看護学を基盤にした理論的知識と実践力を備えた保健師を育て、国民の健康増進に寄与していきましょう。



# 特集1 委員会活動報告

今年度は4つの委員会で活動しました。1年間の活動の概要を国家試験対策委員会、教員研修委員会、保

健師教育委員会、広報委員会の順で報告します。

## 国家試験対策委員会

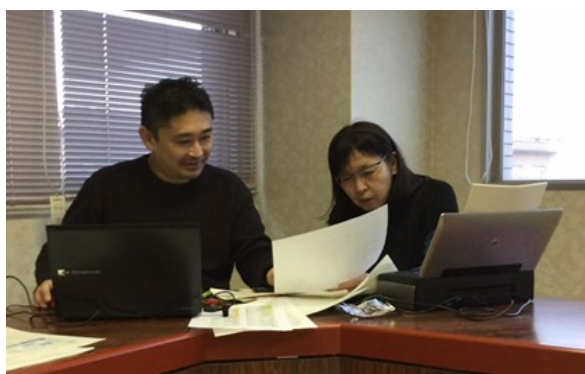
◎城島哲子、播本雅津子、中村京子、坪川トモ子、森山浩司、野村美千江

第102回国試全国調査の分析は奈良に集まり2月20日～22日に行いました。70チーム（88校）からの回答を参考に進めました。協力校の皆様ありがとうございました！ それでは、今年で卒業予定の委員からのメッセージをお届けします（城島委員長）。

前任者の任期を引き継ぎ、6月の総会から参加致しました。社員総会、理事会、委員会に初参加の私は、保健師教育のプロとしての先生方の熱意に驚き、また自らの勉強不足を痛感したスタートでした。今年度の活動は、まず前年度委員でブラッシュアップされた保健師国家試験問題「できるかも作戦」を委員で分担してWEB応募することでした。ところが、昨今の情報セキュリティの強化から、大学パソコンの設定変更と、厚労省HPを検索して国家試験WEB登録画面に行きつくまでが大変！！やっとのことで登録画面にたどり着き入力始めたところ、正答1つのところチェックしていない番号まで自動的に2つ表示され、仕方なく問題横にWEBの不具合を

記入して登録しました。また、1回登録すると修正ができないこともあり、もっと利用しやすいWEB登録システムへの改善が必要だと痛感しました（中村委員）。

26年度より2年間委員を務めました。役割が決まったときは国家試験対策委員など私に務まるかとても不安でした。26年度は「できるかも作戦」のブラッシュアップ作業、そして2年連続で国家試験問題のまとめの作業を行いました。当初の不安は、諸先輩方が作成したマニュアルや資料で解消。作業ではベテラン委員のご指導に感謝感激。そして全国の仲間から届く知恵や意見が、委員会の一定の作業を経て貴重な資料として仕上がっていく過程に深く感動し、これが組織力の素晴らしさだと感じました。今は任期が終わるのを寂しく感じています。皆様本当にありがとうございました（播本委員）。



写真はH28年2月21日作業の様子



## 教員研修委員会

◎小西かおる、佐久間清美、中尾八重子、日景真由美、福岡悦子  
外部委員 安齋由貴子、和泉京子、都筑千景  
アドバイザー：荒木田美香子

教員研修会は、年2回開催しており、第30回全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会を、「新しい公衆衛生看護学教育の確立に向けて」をテーマに、平成27年8月28日（金）9:30～17:00にホテルルブラ王山（名古屋市）において開催し、170人を超える参加者を得ることができました。また、第4回全国保健師教育機関協議会秋季教員研修会を、「公衆衛生看護学教員の力量形成に向けて」をテーマに、平成27年11月3日（火）13:00～17:00に長崎県総合福祉センター（長崎市）において開催し、120名を超える参加者を得ることができ、大変盛り多い時間を共有することができました。

教員研修委員会では、公衆衛生看護学教員のキャリアラダーの構築を目指し、教員研修会を通じて、教育・研究において身につけるべき能力、および、その修得方法（個別・全保教研修）の抽出を行いました。平成28年度は、公衆衛生看護学教員のキャリアラダーを精選する「キャリアラ

ダー班」と、ラダーに基づく研修の体系化を進める「教員研修班」とに組織を拡大し、公衆衛生看護学の確立と教員の力量形成に貢献できる研修のあり方を見直していきます。会員校のニーズに対応した参加しやすく魅力的なテーマを考案し、さらなる教員の質向上に向けた取組みを企画していく予定です。

第31回全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会は、平成28年8月28日（日）に東京で、第5回全国保健師教育機関協議会秋季教員研修会は、平成28年10月25日（火）に大阪で開催予定です。教育、実習、研究、実践との連携などに応用でき、全国の会員校との交流ができる内容を準備していますので、できるだけ多くの方にご参加いただけるようお願いいたします。

教員研修は、個々の教員の力量形成はもちろん、全国の公衆衛生看護学に関わる教員のネットワーク形成の場でもあると考えています。会員校の皆さまのご協力をお願いいたします。

## 保健師教育検討委員会

◎大木幸子、表志津子、齋藤美和、澤井美奈子、當山裕子  
アドバイザー：荒木田美香子

保健師の教育課程は、大学院、学部での保健師看護師統合カリキュラム課程、学部での選択課程、短期大学専攻科、専修学校等と多様な教育コースで実施されています。しかしいずれの教育課程においても卒業時に実践現場で必要とされる実践能力を等しく育成するための教育の質の保証が求められています。全国保健師教育機関協議会では、保健師教育の到達水準を明確にするために、平成25年度に「保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ全国保健師教育機関協議会版(2014)」(以下MR2014)を作成しました。MR2014は、保健師教育で教える内容をすべて修得した状態を100点とした場合の、そのうち60点にあたる内容として設定されており、6つの大項目、25の中項目、161の小項目、510の行動目標から構成されています。このMR2014は、教育者、学生、自治体など実践現場の保健師の3者による活用が想定されています。しかし、MR2014は行動目標数の多さから、日常的活用

が必ずしも容易ではない点がありました。そのため、平成27年度の保健師教育検討委員会では、MR2014コンパクト版の作成にとりくみました。MR2014コンパクト版は、全国の保健師教育機関の共通の指標となり、学生の到達度、教育プログラムの評価のために、日常的に使える指標として活用できるものを目指しました。同一学生に対する演習や実習の前後の評価への活用、あるいは各学年の同一時期に実施することでの経年での教育評価へ活用いただければと考えています。また学生の自己評価へも活用ができると考えます。

作成にあたっては委員会でコンパクト版の項目を検討し、それを12月に会員校に向けてのコンパクト版としての適切性を尋ねたアンケート調査を行いました。182校の会員校のうち68校から回答をいただきました。その結果を基に委員会で検討を重ね、コンパクト版の作成を行いました。完成版は次年度の総会で冊子として配付予定です。

調査にご協力いただいた会員校の皆様へ感謝します。

## 広報委員会

◎金子仁子 工藤恵子 アドバイザー 野村美千江

広報委員会ではニュースレターを年2回（春、秋）ウェブを通じて配信しました。春には1年間の各員会・ブロック活動報告を、秋には夏期研修の内容を掲載しました。

迅速な情報を発信するをするため事務局の多大な協力によりメールマガジンを月1回配信しました。

ホームページについては小規模修正を行い、厚生労働省などに提出した要望書をウェブから確認することができるようにしました。ホームページの構成等について大幅見直しがつよような時期来ていると認識していますが、経費がかかるため見送っております。今後はさらにはインターネットを使用した情報発信は大切

と思われますので、予算的な対応がなされることを希望しています。

活動の周知方法としていままでは公衆衛生学会での展示を行ってきましたが、展示に来て下さる方は関係者の方が多いので、多くの方に全国保健師教育機関協議会の活動を知っていただくために何をしていたらよいかを検討し、今後は日本地域看護学会等の学会誌に活動内容を伝えるような広告を掲載するという方向性を考えています。

また、他機関・団体からの情報発信依頼への対応について検討し、発信内容としては保健師教育に関すること、保健師活動に関することとしました。

## 特集2 ブロック活動報告

全国保健師教育機関協議会では全国を5つのブロックに分け、それぞれの企画で活動を行って

ます。ブロックごとの活動報告を掲載します。

### 北海道・東北ブロック

ブロック担当理事：播本雅津子・日景真由美

今年度はブロック会議の当番を名寄市立大学が務めました。名寄は北海道北部に位置し、札幌まではJRで約3時間のずばり過疎地域。本来ならば当番校所在地である名寄で開催したいところ皆様の利便を考えて、札幌市内で開催いたしました。

名寄にお越しいただいた場合には、名寄土産をお求めいただけるのに、と考えたことから、名寄観光まちづくり協会より名寄銘菓等の名寄土産を預かり、会場で販売いたしました。また、会議後の情報交換会ではアトラクションとして「名寄の星空」をテーマに天文台技師の経験のある本学事務職員が講話を行い、名寄の美しい星空を映像でご紹介いたしました。さらには、「名寄観光ツアー」のご案内をしたところ、お一人の参加申し込みをいただき、会議翌日朝札幌発で名寄に移動し、半日名寄の地区踏査を行いました。

理事を拝命したことで様々な経験ができました。あとわずかで任期を終えるのを若干さびしく思っています。（播本）

東北地区の活動は、教員研修会および会議を2回、平成27年11月28日（土）と平成28年3月19日（土）に行いました。第1回目は秋田看護福祉大学を会場に開催しましたが、前日からの悪天候で強風や倒木のため列車ダイヤが乱れ、参加者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。研修会では宮城大学の安齋先生から「公衆衛生看護学教員のキャリアラダー —作成経過の報告—」について、ご講演を頂き、秋季教員研修会へ参加できなかった会員校の皆様にも秋季研修会の内容を一部ですが、お伝えすることができました。第2回目は、交通の利便性の良い盛岡市で開催し、年度末の忙しい時期でしたが、12校22名が参加しました。理事会報告を含め、「各校の保健師教育について」参加者で情報交換することができました。

今年度初めて理事を拝命し、会員校の皆様にも助けられながら予定していた活動を行うことができました。（日景）

## 関東・甲信越ブロック

活動担当校：○武蔵野大学、帝京平成大学、杏林大学 上智大学、  
東京医療保健大学、東京医科大学

関東甲信越ブロックの活動方針は、「1. 社会情勢や保健師教育の動向を踏まえ、各校・ブロック間で現状や課題を共有し、保健師教育の質の向上を目指すための情報交換や研修を行う。2. 全国とブロック、各校間での情報の共有、活動の協力を努める。」です。定例会議及び研究会は、年2回実施しました。

第1回は、平成27年8月25日(金)アルカディア市ヶ谷私学会館にて開催し、参加者は31校53名でした。午前に定例会議を行い、午後の研究会は、日本大学工学部建築学科教授の鈴木 昇先生に「住まいと住み方、リアル・ニーズへのアプローチ～保健師教育への期待～」のテーマでご講演いただきました。先生の専門分野である住宅の見取り図を用いた研究を通して、地域包括ケア構想にもあります「住まいと住み方」の地方性、家庭訪問における保健師の問題発見能力への問題提起、保健師教育への期待についてお話いただきました。その後、グループに分かれ保健師教育・実習について情報交換を行いました。

第2回は、平成28年2月4日(木)武蔵野大学有明

キャンパスにて開催し、参加者は29校50名でした。研究会は、「各校の公衆衛生看護学実習と演習における地域診断の実際について」をテーマとし、杏林大学 佐藤睦子先生、新潟大学 小林恵子先生、信州大学 石田史織先生より各校の取り組みについて話題提供いただき、それをもとにグループワークで共有しました。共有された内容は、『限られた実習期間内でいかに効果的に地域診断を実施するか』、『教員と実習指導者の連携、協働・共働の必要性』、『地域住民の方との協働・共働の必要性』、『実習中の地域診断の位置づけ（他事業との兼ね合いや優先順位）』等でした。

今年度は、会議毎に情報交換を設けたことにより、毎回活発な意見交換がされ、各校の地域特性や実習形態の違いが刺激となり議論がより深まり、また、課題や身近な情報共有の機会として会員校間の情報交換の重要性をあらためて感じることができました。

最後になりましたが、今年度関東甲信越ブロックの活動にご協力いただきました理事の先生方、担当校の先生方、会員校の皆様へこの場をお借りして感謝申し上げます。（文責：武蔵野大学 小山千秋）

## 東海・北陸・近畿ブロック活動報告

ブロック担当理事 佐久間清美、森山浩司、表志津子

当ブロックの平成27年度会員校は64校です。平成27年度は2回の定例会と研修会を開催しました。第1回は8月27日（名古屋市：ホテルルブラ王山）で57名34校が参加しました。理事会報告と尼崎市市民協働局部長 野口緑先生の特別講演「生活習慣病予防の保健指導の今」の後、「保健師教育における保健指導力の育成」というテーマで参加校間の情報交換を行いました。野口先生の講演は、保健師教育でどのように特定健診・特定保健指導の知識技術を教授するかを学びました。

「予防で救える命は死なせない」、「住民の命を我々が守る」という理念のもと、職員健診結果から課題を抽出し、職員の現職死亡をゼロにする過程、保健指導の実際を、具体的な事例を用いて紹

介していただきました。情報交換では、各グループから会員校へ保健指導力育成のためのお奨め報告として、現場の保健師とコラボして具体的事例を学べる工夫、企業での実習で保健指導の学習を深める、講義・ロールプレイ・実習の流れで学習する、対象を総合的に観る力を付ける、療養指導と保健指導の違いを考える、など様々な意見を共有しました。

第2回は12月20日（専）京都中央看護保健大学



校)で47名34校が参加しました。ブロックの区割りや体制等の検討を行い、その後教育力向上のため、各校の「公衆衛生看護技術演習・公衆衛生看護実習の課題と工夫」について情報交換を行いました。演習として高齢者への継続訪問をしている、2週と3週に分けて訪問を実施している、実習中に継続訪問している、保健師課程を選択しても脱落する学生がいることなど、多岐にわたる情報交換がされ、参加校間で共有をしました。

保健師選択制の学生が4年次の実習中である会員校が多く、各校の教授内容・体制等に関心を持って情報交換ができ、ブロックで会員校が集まり意見交換することの重要性が再確認できる場となりました。



## 中国・四国ブロック

ブロック担当理事： 福岡悦子 齋藤美和

平成27年度の会員校は、中国地区13校、四国地区10校の23校でした。四国の養成機関は全校加入していますが、中国地方にはまだ未加入校があり、仲間に加わって頂きたいと働きかけています。

今年度の活動は、例年同様8月に当番校の地元で定例会議と研究会、2月に皆が集まりやすい岡山市内で臨時会議と第2回研究会を開催しました。また、12月に意見集約のための予定外の会議を岡山市内で開催しました。

今年度の達成目標の1つに「公衆衛生看護学としての保健師教育について、具体的な教育実践に関する意見交換を行う」があり、研究会は2回とも現場の方の講演を企画しました。8月8日に高知市内で開催した研究会では、「保健師教育への疑問と期待」をテーマに高知県中央東福祉保健所所長田上豊資先生にご講演いただき、平成28年2月26日の第2回研究会は、「保健師を目指す学生さんに現場に出る前に学んでおいてほしいこと」をテーマに倉敷市保健所河本伊津子保健師にご講演いただきました。保健活動や人材育成、実習指導などにかかわるそれぞれの立場から、公衆衛生看護学をどう考え、何を教えておいてほしいかといった内容で、その後の意見交換も活発に行われました。

会議では、今後についての検討や全保教の活動、保健師教育に関する情報共有を行いました。各学校によって喫緊の課題は異なり、一枚岩となれないこともあります。それでも情報共有や研究会などの交流によって助け合ったり安心したりできると感じま

した。

平成28年度は、8月28日に東京で開催される夏季研修の担当になっています。これまでも教員研修会担当経験はありますが、地元以外での開催は初めてです。重圧を感じているところですがこの役割を果たすことができれば、ブロックとして何か見えてくるのではないかと期待しています。どうかお力添えをよろしくお願い致します。

(文責：齋藤美和)



# 九州ブロック

活動担当校 琉球大学（宇座美代子・當山裕子・外間知香子）

九州ブロックの活動方針は、保健師教育における全国的な流れをひまえ、全国の新しい情報を共有するとともに、ブロック間での情報交換を活発に行い、保健師教育の質の向上に努めることです。

活動方針に従い平成27年度は琉球大学が幹事校となり、九州ブロック定例会を1回、研修会・情報交換会を2回開催しました。

九州ブロック定例会は8月6日・7日に沖縄県那覇市ぶんかテンブス館にて開催し、会員校から35名の参加がありました。会議では、地域看護学（公衆衛生看護学）を看護基礎教育のカリキュラムに位置づけること及び公衆衛生看護学領域の教員数の確保に関する対応策の検討について協議し、本会として検討して欲しい旨の文書を本会会長あてに送付しました。また、同日に開催した研修会では、「沖縄県におけるATLの現状と保健師への期待」（講師：琉球大学医学部保健学科長 福島卓也氏）、「保健師に係わる研修のあり方等に関する検討会—中間とりまとめ概要と保健師教育への期待—」（講師 大分県立看護科学大学学長 村嶋幸代氏）、「駐在保健

婦制度とJICA技術協力研修事業について」

（講師：沖縄県看護協会海外研修担当 永山さなえ氏）についてご講演いただき、8/6は31名、8/7は31名の参加があり、学習・交流を深めました。

2回目の研修会は平成27年12月22日琉球大学研究者交流施設・50周年記念館にて開催しました。研修は「研究の進め方—実践者の疑問形を形にした例をとおして—」（講師：九州大学医学部保健学科教授 鳩野洋子氏）、「未だ、終わらない沖縄戦—精神保健の問題を中心に—」（講師：元沖縄県立看護大学教授 當山富士子氏）についてご講演いただき、九州ブロック会員校教員および行政保健師の28名が参加し学習・交流を深め、保健師にしかできない研究、地域の特性を捉えた研究の必要性が確認されました。また、情報交換会では、全保協の会費値上げについて意見交換がなされました。



編集後記：関東では桜もすっかり散ってしまいました。新学期に入り皆様お忙しい時をすごしていると思いま  
 す。本当ならば、このニュースレターは3月中発行をめざしておりましたが、4月に入ってしまい申し訳ござい  
 ません。  
 本号は、各委員会、ブロック活動報告を掲載しました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し  
 上げます。  
 あっという間に2年間で過ぎ、本号をもって現広報委員会でのニュース発行は最後となりました。皆様のご協  
 力に深く感謝いたします。

広報委員長 金子仁子